

平成23年度 学校評価結果報告書

小松市立 串 小学校

	自己評価				学校関係者評価		
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取り組みの状況	達成状況	学校関係者評価者による意見 次年度の方向(改善計画等)	
① 組織的な学校運営	〈組織的な学校運営〉 各主任が中核となり現状課題に対する改善提案をして、教職員各々が校務に責任をもち、一丸となって学校教育目標の具現化を図る。	【成果指標】 実態把握と現状課題に対する取り組み提案がされ、組織的に対応し成果を上げている。	提案が改善工夫された割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	アンケート結果では、ほぼ全員が組織的に取り組んでいる。また、95%の教職員が改善工夫した提案は成果があったとしている。アンケート調査時に全職員が「組織的に対応」 「提案の成果」をふり返りチェックし、意識するようになっている。	A	・教職員一人ひとりが、一体感を持って組織的に教育活動を展開されていることがA評価の維持として表れている。「慣れ」に流されずに組織的に取り組めたことは素晴らしいです。 ・教職員が積極的な研修に努め、改善工夫を重ねその提案を他の教諭と共有し、組織的に又、意識的に実践されていることは大変有り難いことだとおもわれます。 ・研修報告等も表現に工夫され、その効果をあげられていることが調査結果に表れています。 ・危機管理、防災教育、命の教育等を今よりも積極的、具体的に進めるための研究と実践が緊急の課題であると考えています。科学的・実践的に研究を進めて頂くよう希望します。災害は予告なしにやってくる。いつ発生しても対応できるよう、さらなる危険予知訓練が必要かと思えます。	・今後も、「組織的に対応」「提案の成果」が90%以上の状態を維持継続する。そのために職員間の「報告・連絡・相談」をより意識し、職員会議後の取り組みをしっかりと見ていく。さらに研修を深め、学んだことを動画や写真を交えて報告し、検討を重ねた上で、自校にふさわしいものについて即実践につながるようしていく。 ・全職員が知識だけでなく、実際に一人でも自信を持って対応できる状態になるよう、実地訓練を取り入れていく必要がある。
	〈教職員研修〉 教職員は、積極的に研修に努め、その成果を他の教職員と共有し、本校にとって有効なものを共通理解し実践に結びつけていく。	【成果指標】 紙面を伴う研修報告を行い、成果を共有して、本校にとって有効なものを実践に結びつけていく。	提案を受けて実践に結びつけた学級数が A：12学級 B：10～11学級 C：8～9学級 D：7学級以下	写真や動画による報告もあり、研修内容がよくわかる報告であった。そのため、各クラスで実践につなげることが容易であった。	A	・学習環境の工夫、教育実践の研究を推進されていることが調査結果に効果として表れています。子どもたちは「一生懸命勉強しています」と9割の子が答えています。また、「先生の授業は分かりやすい」また、「先生はあなたの勉強のようすを見て声をかけてくれる」とどの項目も90%の子が答えていることが、今回の調査で大きく前進していることに注目しました。 ・児童アンケートでは約25%の子供が、学習の場面にふさわしい環境の工夫を望んでいるのが気懸かりです。引き続き学習意欲が向上するようにご指導願います。 ・昨年、本年度の中間より漢字や計算の定着度が着実に上がっていることはとても評価できます。	・学校研究をさらに進めながら、学習に対する意欲や態度を高めていく。また、学力向上プランに沿った授業改善の推進を図っていく。 ・授業より充実し、さらに意識的に思考力・判断力・表現力を高める場面を作れるよう工夫をしていく。 ・定着し始めた基礎基本を土台とし、学習内容全体の確実な定着を図っていくため、国語・算数の単元テストを指標に入れて評価していく。
	〈危機管理〉 内在する学校危機を想定した研修や訓練と、日常的に危機を意識化することにより、危機の未然防止と危機に対しては迅速で適切な対応を行なう。	【成果指標】 危機を想定した研修・訓練内容を共通理解し、日常的なイメージトレーニングを通して全職員が学校危機に対応できている。	防火設備の対応が身についた職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	非常時の防火設備の対応が一人ひとりでできるようにマニュアルを作成した。全職員が身につくよう何回かチェックを入れた。知識的には大半の職員が分かるようになったが、自信を持って実際にできる人は半数以下である。	C	・学習環境の工夫、教育実践の研究を推進されていることが調査結果に効果として表れています。子どもたちは「一生懸命勉強しています」と9割の子が答えています。また、「先生の授業は分かりやすい」また、「先生はあなたの勉強のようすを見て声をかけてくれる」とどの項目も90%の子が答えていることが、今回の調査で大きく前進していることに注目しました。 ・児童アンケートでは約25%の子供が、学習の場面にふさわしい環境の工夫を望んでいるのが気懸かりです。引き続き学習意欲が向上するようにご指導願います。 ・昨年、本年度の中間より漢字や計算の定着度が着実に上がっていることはとても評価できます。	・学校研究をさらに進めながら、学習に対する意欲や態度を高めていく。また、学力向上プランに沿った授業改善の推進を図っていく。 ・授業より充実し、さらに意識的に思考力・判断力・表現力を高める場面を作れるよう工夫をしていく。 ・定着し始めた基礎基本を土台とし、学習内容全体の確実な定着を図っていくため、国語・算数の単元テストを指標に入れて評価していく。
② 確かな学力の育成	〈授業改善〉 児童の実態を把握し、効果的な指導法を図り、授業力向上に努める。	【満足度指標】 児童が意欲的に授業に臨み、学習内容を理解している。	授業が分かった、楽しいと思える児童が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	学習の約束となる「くしっご当たり前5ヶ条」や学校研究の体育科の学習が機能してきており、落ち着いた学習環境となってきた。 「分かる87%、楽しい82%」	B	・学習環境の工夫、教育実践の研究を推進されていることが調査結果に効果として表れています。子どもたちは「一生懸命勉強しています」と9割の子が答えています。また、「先生の授業は分かりやすい」また、「先生はあなたの勉強のようすを見て声をかけてくれる」とどの項目も90%の子が答えていることが、今回の調査で大きく前進していることに注目しました。 ・児童アンケートでは約25%の子供が、学習の場面にふさわしい環境の工夫を望んでいるのが気懸かりです。引き続き学習意欲が向上するようにご指導願います。 ・昨年、本年度の中間より漢字や計算の定着度が着実に上がっていることはとても評価できます。	・学校研究をさらに進めながら、学習に対する意欲や態度を高めていく。また、学力向上プランに沿った授業改善の推進を図っていく。 ・授業より充実し、さらに意識的に思考力・判断力・表現力を高める場面を作れるよう工夫をしていく。 ・定着し始めた基礎基本を土台とし、学習内容全体の確実な定着を図っていくため、国語・算数の単元テストを指標に入れて評価していく。
	〈活用する力の育成〉 新学習指導要領を熟知し、指導方法を工夫し、児童に思考力・判断力・表現力等の活用する力を育てる授業実践をする。	【成果指標】 算数科を中心に、活用する力を育成する授業実践を行なっている。	評価テスト(活用)の到達度平均が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	算数では、自力解決、学び合いでの確認という学習形態を作った。ドリルタイム等を利用し、基礎学力の充実や活用力を高める工夫をしてきた。評価テスト結果 平均点74.6点	B	・学習環境の工夫、教育実践の研究を推進されていることが調査結果に効果として表れています。子どもたちは「一生懸命勉強しています」と9割の子が答えています。また、「先生の授業は分かりやすい」また、「先生はあなたの勉強のようすを見て声をかけてくれる」とどの項目も90%の子が答えていることが、今回の調査で大きく前進していることに注目しました。 ・児童アンケートでは約25%の子供が、学習の場面にふさわしい環境の工夫を望んでいるのが気懸かりです。引き続き学習意欲が向上するようにご指導願います。 ・昨年、本年度の中間より漢字や計算の定着度が着実に上がっていることはとても評価できます。	・学校研究をさらに進めながら、学習に対する意欲や態度を高めていく。また、学力向上プランに沿った授業改善の推進を図っていく。 ・授業より充実し、さらに意識的に思考力・判断力・表現力を高める場面を作れるよう工夫をしていく。 ・定着し始めた基礎基本を土台とし、学習内容全体の確実な定着を図っていくため、国語・算数の単元テストを指標に入れて評価していく。
	〈基礎基本の習熟〉 漢字や計算の習熟学習を進め、基礎基本の学力定着を図る。	【成果指標】 漢字・計算等の習熟指導を行い、基礎基本の知識・技能の定着を図っている。	漢字・計算の評価テストの達成度平均が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	昨年度の取り組み、今年度中間までの取り組みと定着度は上がってきている。漢字92%、計算90%とA評価領域に達するようになってきている。学習環境の安定と習熟タイム、家庭学習が機能してきている。	A	・学習環境の工夫、教育実践の研究を推進されていることが調査結果に効果として表れています。子どもたちは「一生懸命勉強しています」と9割の子が答えています。また、「先生の授業は分かりやすい」また、「先生はあなたの勉強のようすを見て声をかけてくれる」とどの項目も90%の子が答えていることが、今回の調査で大きく前進していることに注目しました。 ・児童アンケートでは約25%の子供が、学習の場面にふさわしい環境の工夫を望んでいるのが気懸かりです。引き続き学習意欲が向上するようにご指導願います。 ・昨年、本年度の中間より漢字や計算の定着度が着実に上がっていることはとても評価できます。	・学校研究をさらに進めながら、学習に対する意欲や態度を高めていく。また、学力向上プランに沿った授業改善の推進を図っていく。 ・授業より充実し、さらに意識的に思考力・判断力・表現力を高める場面を作れるよう工夫をしていく。 ・定着し始めた基礎基本を土台とし、学習内容全体の確実な定着を図っていくため、国語・算数の単元テストを指標に入れて評価していく。
③ 豊かな心の育成	〈楽しい学級〉 授業を中心に、認め合い、励まし合う人間関係を向上させ、活き活きとした学級づくりをする。	【成果指標】 授業を中心に、認め合い、励まし合う人間関係が高まり、児童が楽しく学級生活を送っている。	楽しい学級だと感じている児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	「わかり合う授業」作りに力を入れ、授業の中で他者理解が進み、児童の存在感が高められた。楽しい70% ほぼ楽しい 24%	A	・学級の友だちと楽しく遊んだり、勉強していると答えている子が調査全体の中で群を抜いて良好な結果になっていることは、学習環境が物理的にも心理的にも保障されているからだと感じます。 ・ただとても難しいことかもしれませんが、学級の楽しさや学びの楽しさを伝えるための取り組みも大切だと思えます。 ・読書活動にクラスの温度差があるようですが、その原因を的確につかみ対策が必要かと思われまます。 ・最近の世相は人と人との和を大切に心が気薄になっている感じがする。おすすめ10冊の中に和の心を説いてある内容の書物が必要であろう。 ・児童が主体性を持って生活目標を掲げ、その目標達成に向けての取り組みは素晴らしいことでもあります。継続が大事です。	・分かり合う授業作りを今後も進めていく。その中で、認め合い、励まし合う関係を気づいていく。楽しいと感じられる雰囲気を作っていく。 ・朝読書、聞かせ読みの取り組みは充実していた。図書貸し出し数も多くなっている。しかし、個人差がある。その個人差を埋めるためのおすすめ10冊であるので、今後も改善を図りながら読書に親しめるよう図っていく。 ・各クラスが実態に合った活動を立て、達成に向けた実践が成されるようになっていった。児童の努力や我慢を認めながら継続して取り組んでいきたい。
	〈読書活動の充実〉 伝統ある読書活動を基盤に、学校の実態に合わせた取り組みを充実させ、進んで本に親しむ環境を整備し、豊かな情操を養う。	【成果指標】 朝読書の充実と「おすすめ10冊(5冊)」をすべて読み終えるよう取り組んでいる。	おすすめ10冊を読み終えた児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	読書内容の充実を図るための意図的な読書指導の見取りであるが、読む力の低い児童も、家庭や担任の支援を受けてコツコツと取り組んだ。達成率80.6%	B	・学級の友だちと楽しく遊んだり、勉強していると答えている子が調査全体の中で群を抜いて良好な結果になっていることは、学習環境が物理的にも心理的にも保障されているからだと感じます。 ・ただとても難しいことかもしれませんが、学級の楽しさや学びの楽しさを伝えるための取り組みも大切だと思えます。 ・読書活動にクラスの温度差があるようですが、その原因を的確につかみ対策が必要かと思われまます。 ・最近の世相は人と人との和を大切に心が気薄になっている感じがする。おすすめ10冊の中に和の心を説いてある内容の書物が必要であろう。 ・児童が主体性を持って生活目標を掲げ、その目標達成に向けての取り組みは素晴らしいことでもあります。継続が大事です。	・分かり合う授業作りを今後も進めていく。その中で、認め合い、励まし合う関係を気づいていく。楽しいと感じられる雰囲気を作っていく。 ・朝読書、聞かせ読みの取り組みは充実していた。図書貸し出し数も多くなっている。しかし、個人差がある。その個人差を埋めるためのおすすめ10冊であるので、今後も改善を図りながら読書に親しめるよう図っていく。 ・各クラスが実態に合った活動を立て、達成に向けた実践が成されるようになっていった。児童の努力や我慢を認めながら継続して取り組んでいきたい。
	〈主体性の育成〉 児童が学年を越えた様々な取り組みの下で、主体的に生活目標達成に向けて取り組んだり、規範意識を高め合ったりできるように指導を工夫する。	【成果指標】 児童会を中心として、生活目標の達成や規範意識の向上に向けて、自主的に取り組みを進めている。	生活目標に対するクラスのめあてを達成できた児童の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	「はじまりをたいせつにしよう」という生活目標をすべての学期始めに掲げた。それに対するめあての達成率は4月74%、9月75%、1月90%という結果となった。	A	・学級の友だちと楽しく遊んだり、勉強していると答えている子が調査全体の中で群を抜いて良好な結果になっていることは、学習環境が物理的にも心理的にも保障されているからだと感じます。 ・ただとても難しいことかもしれませんが、学級の楽しさや学びの楽しさを伝えるための取り組みも大切だと思えます。 ・読書活動にクラスの温度差があるようですが、その原因を的確につかみ対策が必要かと思われまます。 ・最近の世相は人と人との和を大切に心が気薄になっている感じがする。おすすめ10冊の中に和の心を説いてある内容の書物が必要であろう。 ・児童が主体性を持って生活目標を掲げ、その目標達成に向けての取り組みは素晴らしいことでもあります。継続が大事です。	・分かり合う授業作りを今後も進めていく。その中で、認め合い、励まし合う関係を気づいていく。楽しいと感じられる雰囲気を作っていく。 ・朝読書、聞かせ読みの取り組みは充実していた。図書貸し出し数も多くなっている。しかし、個人差がある。その個人差を埋めるためのおすすめ10冊であるので、今後も改善を図りながら読書に親しめるよう図っていく。 ・各クラスが実態に合った活動を立て、達成に向けた実践が成されるようになっていった。児童の努力や我慢を認めながら継続して取り組んでいきたい。
④ 健やかな体の育成	〈体力づくり〉 体育授業の充実とスポチャレや一校一プラン、異学年交流等年間を通した体力づくりの取り組みを進め、運動の日常化と体力の向上を図る。	【成果指標】 体育の授業を中心に、年間を通した体力づくりに、意欲的に取り組んでいる。	体育の授業を、ベストを尽くしてがんばったと感じている児童 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	たいへんがんばったと感じている児童の割合は66%、ほぼがんばることができたと感じている児童と合わせると93%という結果だった。	A	・体育の授業づくりと体育活動を本年度の重点項目として取り組まれた成果が子どもの調査結果に表れました。健やかな体・柔軟な体は生きる力の根幹だと認識しています。参観した体育の授業が非常に楽しそうでした。体育で自己実現できる子もいます。「D」が二つあるのが残念です。目標や興味を持たせて、ほめることを多く取り入れ、教師が返していくことが大切です。 ・歯磨き習慣、基本的な生活習慣の定着は、科学的な知識理解と相まって単純な行為を繰り返し実践していくしかありません。健康づくりの起爆剤となることは確かだと思います。大人になった現在の子どもたちが次世代に普遍していくでしょう。家庭に主体的取り組みが必要であることは言うまでもありませんが、 ・健やかな体の育成には、規則正しい生活リズムが基本であり、その基本を忠実に守ることの大切さを指導する必要があります。	・体育の授業を中心とした体力づくりと来年度も継続して取り組む。運動が楽しいできるようになりたいという気持ちにつながる指導を教師も研究していくことで子どもたちの運動意欲の向上を図ってきたい。 ・3学期から始めた給食後の歯磨きは、児童保健委員会が継続して呼びかけた結果、実施している児童は増えているので、来年度も継続して児童保健委員会を通じて取り組んでいきたい。 ・コーンにつけたメッセージを見て、歩こうとする児童は増えた、声を掛け合って歩いているとの反応は、いずれも低学年で、相変わらず遊びに行くときは周りを見ずに走っている現状があった。全校での取り組みが最も有効であると思うので、継続して取り組んでいきたい。
	〈基本的な生活習慣の確立〉 家庭と連携して、規則正しい生活習慣の確立を図り、望ましい生活リズムを身に付けた児童を育てる。	【成果指標】 学校と家庭が連携した取り組みの中で、児童が規則正しい生活習慣を身に付けている。	6/1～30の歯の衛生週間に、朝、昼、晩の歯みがきをしている割合が A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	歯みがきカレンダーの回収率は、72.7%で、高学年の回収率の低さが目立った。回収できただけの歯みがき実施率は、全体で55.3%と低い結果となった。	D	・体育の授業を中心とした体力づくりと来年度も継続して取り組む。運動が楽しいできるようになりたいという気持ちにつながる指導を教師も研究していくことで子どもたちの運動意欲の向上を図ってきたい。 ・3学期から始めた給食後の歯磨きは、児童保健委員会が継続して呼びかけた結果、実施している児童は増えているので、来年度も継続して児童保健委員会を通じて取り組んでいきたい。 ・コーンにつけたメッセージを見て、歩こうとする児童は増えた、声を掛け合って歩いているとの反応は、いずれも低学年で、相変わらず遊びに行くときは周りを見ずに走っている現状があった。全校での取り組みが最も有効であると思うので、継続して取り組んでいきたい。	・体育の授業を中心とした体力づくりと来年度も継続して取り組む。運動が楽しいできるようになりたいという気持ちにつながる指導を教師も研究していくことで子どもたちの運動意欲の向上を図ってきたい。 ・3学期から始めた給食後の歯磨きは、児童保健委員会が継続して呼びかけた結果、実施している児童は増えているので、来年度も継続して児童保健委員会を通じて取り組んでいきたい。 ・コーンにつけたメッセージを見て、歩こうとする児童は増えた、声を掛け合って歩いているとの反応は、いずれも低学年で、相変わらず遊びに行くときは周りを見ずに走っている現状があった。全校での取り組みが最も有効であると思うので、継続して取り組んでいきたい。
	〈安全能力の育成〉 学校内外を問わず、危険を察知し、自分の身は自分で守る能力を育てる。	【成果指標】 児童は、日常的に安全に留意し、廊下を走らないように心掛けている。	年度当初より良くなったと感じている教師の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	「年度初めと比べて、学童前廊下を走る児童が少なくなっていると感じている」と答えた職員は43.8%と低い結果となった。	D	・体育の授業を中心とした体力づくりと来年度も継続して取り組む。運動が楽しいできるようになりたいという気持ちにつながる指導を教師も研究していくことで子どもたちの運動意欲の向上を図ってきたい。 ・3学期から始めた給食後の歯磨きは、児童保健委員会が継続して呼びかけた結果、実施している児童は増えているので、来年度も継続して児童保健委員会を通じて取り組んでいきたい。 ・コーンにつけたメッセージを見て、歩こうとする児童は増えた、声を掛け合って歩いているとの反応は、いずれも低学年で、相変わらず遊びに行くときは周りを見ずに走っている現状があった。全校での取り組みが最も有効であると思うので、継続して取り組んでいきたい。	・体育の授業を中心とした体力づくりと来年度も継続して取り組む。運動が楽しいできるようになりたいという気持ちにつながる指導を教師も研究していくことで子どもたちの運動意欲の向上を図ってきたい。 ・3学期から始めた給食後の歯磨きは、児童保健委員会が継続して呼びかけた結果、実施している児童は増えているので、来年度も継続して児童保健委員会を通じて取り組んでいきたい。 ・コーンにつけたメッセージを見て、歩こうとする児童は増えた、声を掛け合って歩いているとの反応は、いずれも低学年で、相変わらず遊びに行くときは周りを見ずに走っている現状があった。全校での取り組みが最も有効であると思うので、継続して取り組んでいきたい。
⑤ 家庭・地域との連携	〈社会性の育成〉 学校・家庭・地域が連携して、日常的に自然で明るいあいさつができる児童を育成する。	【成果指標】 学校ではもちろん、家庭や地域でも、児童が身近な人に気持ちのよいあいさつをしている。	児童が挨拶を返してくれると感じている教師・保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	児童会主催のあいさつ運動で11月から1月にかけて、4年以上のクラスが1週間ずつ児童玄関前で運動を行った。4月43%が2月には、74%と上昇傾向にある。	B	・あいさつについてのアンケート結果を見ると、子供たちと先生方・保護者との間で、かなりの開きがあるようです。 ・あいさつは人と人とのコミュニケーションの始まりです。学校、家庭、地域が連携し、元気にあいさつの出来るくしっごを育てていく環境が大切です。 ・学校の方針や様子が保護者に、より伝わっている点は学校側の努力が感じられます。 ・学校の教育ビジョンが保護者や家庭に届くことは地域社会を活性化させる基盤になっていると考えています。学校と地域社会の連携を密にして、共に協働して進んでいけたらと希望しています。	・児童会主催のあいさつ運動、くしっごグッドマナーの実行をベースに児童の主体的な行動を喚起しながら目標を継続していく。 ・改善を要する項目は、だいたい決まっております。次回からは項目の数から改善項目自体の向上状況を判断基準にすべきである。 ・学校の方針や見解については、学校だけでなく、学年・学級だけでなく、HP、メール配信等多様な活用を今後も継続する。90%以上を目指し伝えることを絶えず意識しながら、各種行事や催し案内等、いろいろな機会を極力活かすようにしていく。
	〈教育活動の公開と改善〉 学校の教育活動を積極的に公開し、保護者・地域の意見を受け止め、家庭・地域と連携した信頼される学校づくりに努める。	【満足度指標】 保護者・地域の意見を学校改善に生かしている。	アンケート結果で改善を要する項目のうち、向上した項目の割合 A：全ての項目で B：8割の項目で C：6割の項目で D：5割以下の項目で	保護者アンケートの「保護者や地域の意見を学校改善に活かしていますか」では、だいたい活かしている以上は88%であった。改善を要する項目は3項目であり、いずれも向上している。前回のアンケートでは保護者からの意見・要望に対して学校の方針・見解を示し、できる限り学校改善の参考とした。	A	・あいさつについてのアンケート結果を見ると、子供たちと先生方・保護者との間で、かなりの開きがあるようです。 ・あいさつは人と人とのコミュニケーションの始まりです。学校、家庭、地域が連携し、元気にあいさつの出来るくしっごを育てていく環境が大切です。 ・学校の方針や様子が保護者に、より伝わっている点は学校側の努力が感じられます。 ・学校の教育ビジョンが保護者や家庭に届くことは地域社会を活性化させる基盤になっていると考えています。学校と地域社会の連携を密にして、共に協働して進んでいけたらと希望しています。	・児童会主催のあいさつ運動、くしっごグッドマナーの実行をベースに児童の主体的な行動を喚起しながら目標を継続していく。 ・改善を要する項目は、だいたい決まっております。次回からは項目の数から改善項目自体の向上状況を判断基準にすべきである。 ・学校の方針や見解については、学校だけでなく、学年・学級だけでなく、HP、メール配信等多様な活用を今後も継続する。90%以上を目指し伝えることを絶えず意識しながら、各種行事や催し案内等、いろいろな機会を極力活かすようにしていく。
	〈経営方針や教育活動の周知〉 学校からの発信を充実させ、保護者に学校の経営方針や教育活動を伝え、理解と協力を得る。	【満足度指標】 保護者に学校の経営方針や教育活動が理解されている。	学校の方針や様子が伝わっていると感じる保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	保護者アンケートの「学校の教育方針や普段の各種情報が伝わっていますか」は87%であった。アンケート結果、保護者の声を真摯に受け止め、学校の方針や見解を知ってもらうよい機会と捉え、今年度は特に意識して返していくよう心がけた。	B	・あいさつについてのアンケート結果を見ると、子供たちと先生方・保護者との間で、かなりの開きがあるようです。 ・あいさつは人と人とのコミュニケーションの始まりです。学校、家庭、地域が連携し、元気にあいさつの出来るくしっごを育てていく環境が大切です。 ・学校の方針や様子が保護者に、より伝わっている点は学校側の努力が感じられます。 ・学校の教育ビジョンが保護者や家庭に届くことは地域社会を活性化させる基盤になっていると考えています。学校と地域社会の連携を密にして、共に協働して進んでいけたらと希望しています。	・児童会主催のあいさつ運動、くしっごグッドマナーの実行をベースに児童の主体的な行動を喚起しながら目標を継続していく。 ・改善を要する項目は、だいたい決まっております。次回からは項目の数から改善項目自体の向上状況を判断基準にすべきである。 ・学校の方針や見解については、学校だけでなく、学年・学級だけでなく、HP、メール配信等多様な活用を今後も継続する。90%以上を目指し伝えることを絶えず意識しながら、各種行事や催し案内等、いろいろな機会を極力活かすようにしていく。

